



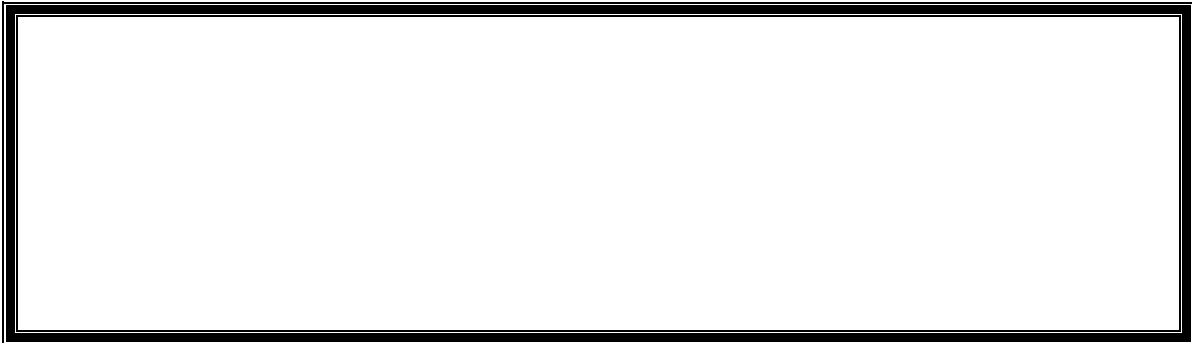
やよいじん

弥生人の暮らし

～米づくりのはじまり～

弥生時代には日本に米づくりが伝わったわり、それまでの狩りや木の実などを食料とする生活から、自分たちで作物をつくる生活が始まりました。

- 1 米づくりに使われた木でできた農具には、どのようなものがあるでしょう。展示されているものをよく見てかたんにスケッチしてみましょう。



- 2 『米づくり』につかわれた道具があります。つぎのものをさがしてよく見てみましょう。見つかったら□にチェックをして、道具の名前をかきましょう。

1 □



(石包丁)

2 □



(たてぎね)



- 3 上の1の道具を使って、稲のどの部分をかりとったのでしょうか。

Ⓐ 穂の部分を取りとった

B 根元から取りとった



- 4 米づくりが始まって、縄文時代とくらべて生活や社会のようすがどうかわったか考えてみましょう。

縄文時代は、狩猟・採集を中心とする自然にたよった生活で、身分の差は無かったが、弥生時代になると稲作などで食料生産を行う農耕生活になり、ムラからクニが発生して指導者が現れ、身分の違いも見られるようになってきた。またクニ同士の争いも起こるようになってきた。



やよいびん
弥生人のくらし ~ やよいどき 弥生土器 ~

1 弥生土器は使いみちにおうじていろいろな形のものがつくられました。それぞれの土器の形をかき、使い方の説明と線でむすびましょう。



つぼ

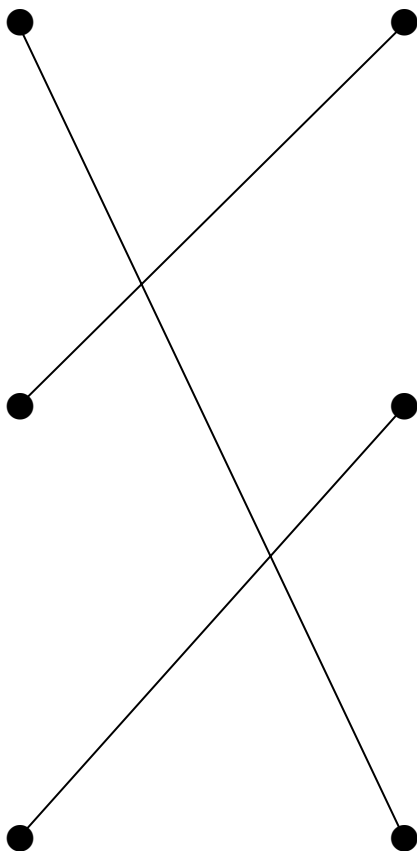
口が大きくひらいた形です。
煮炊きに使いました。

かめ

もりつけや祭に使いました。

たかつき

米やもみをたくわえておくのに使いました。



2 弥生土器は、縄文土器とくらべてどんなところがちがうか見くらべてみましょう。

弥生土器は、縄文土器に比べ薄手に作られている。また、縄文土器のように表面に施された豪華な取っ手や文様がなくなり、幾何学的な文様が施されている。

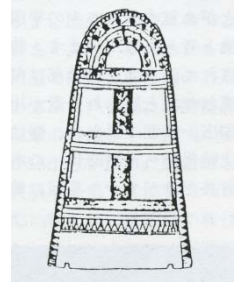


やよいじん の たたか
弥生人の祈りと戦い ~ 銅鐸と矢じり ~
どうたく

弥生時代には、金属がつたわり、いろいろな青銅器せいどうきが作られました。また、ムラとムラのあいだにも争いがありました。

- 1 右の図のような青銅器は、米づくりのまつりに使われた道具だと考えられています。なんと呼ばれている青銅器でしょう。

どう たく
銅 鐸



- 2 もともこの青銅器は鳴らして使われていたものです。どんな音がするか鳴らしてみましょ。どんな音がするか、聞こえるままにかいてみましょう。

※鳴らせる青銅器は、常設展の出口にあるよ。

カーン

- 3 兵庫県神戸市桜ヶ丘からでてきた銅鐸にはどのような絵がかいてあるのでしょうか。どれでも1つスケッチしてみましょう。



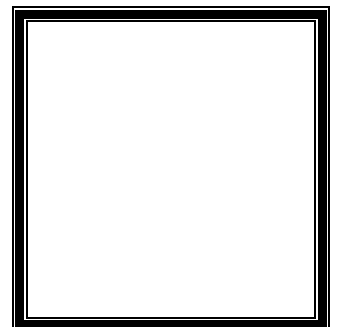
- 4 下の写真は縄文時代の矢じりです。矢じりとは矢の先につけられた道具です。弥生時代の矢じりとくらべてみましょう。

- ① 弥生時代の矢じりをスケッチしてみよう。

- ② どちらか大きいかな？

縄文時代

弥生時代



- ② どちらがつよい力がありそうかな？

縄文時代の「矢じり」

弥生時代

縄文時代

弥生時代

- ④ 弥生時代の矢じりはどのように使われたのでしょうか。考えてみましょう。

たたかいの道具として使われていたと考えられています。